

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	医療福祉心理学分野
学籍番号	なし	院生氏名	平間さゆり
通学キャンパス	東京		
論文題目	犯罪者の共感性と対人認知傾向の研究 ～社会的視点取得の観点からの一考察～		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 研究の概要</p> <p>1) 目的：犯罪者と一般成人における共感性、社会的視点取得、対人認知の差異を明らかにし、犯罪者の対人認知と共感性及び社会的視点取得との関連を検討する。</p> <p>2) 研究Ⅰ：犯罪者と一般成人における共感性の構成要素、及び社会的視点取得の差異</p> <p>①目的：犯罪者と一般成人における共感性の4つの構成要素と社会的視点取得の差異を検討する。</p> <p>②方法：対象は犯罪者14名(平均46.0歳)、一般成人57名(平均51.8歳)。共感性は多次元共感性尺度、社会的視点取得は鳥獣戯画テスト(Selmanの役割取得能の発達段階で評価)を実施した。</p> <p>③結果：犯罪者は、共感性の構成要素の個人的苦痛(他者の不安や苦痛が他者に向わず自分中心の感情的反応になる)の得点が高く、社会視点取得の能力は低値であった。</p> <p>3) 研究Ⅱ：犯罪者と一般成人の対人認知について</p> <p>①目的：犯罪者と一般成人における他者配慮の範囲、状況理解、対人認知の傾向の差異を検討する。</p> <p>②方法：対象は研究Ⅰと同じ。鳥獣戯画テストの図版の状況を対人認知(他者配慮の範囲、状況理解、対人認知の傾向)の観点から量的、質的に分析した。</p> <p>③結果：犯罪者は、状況理解では肯定的表現が少なく、対人認知の傾向では、服従、攻撃等の極端な認知の傾向が強く、道徳等の社会的な対人認知の傾向が見られない。攻撃的な表現が目立った。</p> <p>4) 結論：犯罪者は否定的で極端な対人認知の傾向があり、社会的な対人認知の能力に乏しく、他者や状況を客観的に把握することが困難である。かかる対人認知の傾向が、他者の不安や苦痛が他者に向わず自分中心の感情的反応に、また社会的視点をとることの困難に繋がると考えられた。</p> <p>2. 研究方法、論証、論文形式</p> <p>研究方法は倫理的に問題はない。論証、論文形式ともに適切である。</p> <p>3. 知見の新規性と価値</p> <p>成人犯罪者の共感性の検討は乏しく、特に社会的視点取得に関しては成人尺度がなく検討はされておらず、本研究の新規性は高い。本研究は再犯防止や矯正教育に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>4. 審査経過・口頭試問</p> <p>審査会は3回開催し、第1回と第2回の審査で論文修正を求めたところ適切に修正された。口頭試問においては適切な応答がなされた。</p> <p>6. 合否</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(臨床心理学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 鹿島 晴雄</p> <p>副 査 飯長 喜一郎</p> <p>副 査 丸木 一成</p>		